

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年12月16日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104951
法人名	医療法人 明輝会
事業所名	グループホーム帯迫
所在地	鹿児島市吉野町2826-1 (電話) 295-7055
自己評価作成日	H25年10月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成25年10月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは鹿児島北部吉田インターより車で10分、住宅地に位置しており、円型の建物の中にデイサービスが併設、それぞれの居住空間は中庭に面しているためユニット間の動きが分かり、職員が協力し合えたり、利用者様同士の交流もしやすい。自治会に加入、地域の行事(運動会、夏祭り等)には可能な限り参加し地域交流に繋がっています。近隣のスーパーで一緒に買い物や誕生日などにご本人、ご家族の要望に添って夕食やお茶を楽しむ等の外出支援に取り組んでいます。法人が医療法人の為、病院との連携体制が整っており利用者様の健康管理や緊急時も安心して生活が送れるよう支援しています。室内全体にカーペットが敷き詰めてあるため家庭的な温かみを感じ、履物を使用していないので転倒防止にも繋がっています。テーブルが台形で用途に合わせて自由自在に組み合わせることができ、機能的で利用者様同士がコミュニケーションを図って頂くのにも役立っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○ホームは鹿児島市の商店街に近い静かな住宅街に位置し、デイサービスセンターと併設されている。近隣には母体医療法人や介護老人保健施設など多くの関連施設もあり、母体医療機関との連携は緊密で十分な支援体制が築かれており、利用者や家族からの信頼は極めて厚いものがある。

○地域との連携にも積極的で、自治会に加入して地域の祭りや運動会、清掃活動等に参加すると共に、日常的に地域の人々と挨拶や話を交わしている。また、ホームでの年に数回の地域との交流会の開催や誕生会への踊りのボランティアの来訪など交流の機会は多く、利用者はこれらの機会を楽しみにしている。今後は災害時の炊き出しの訓練や地域の防災用具の保管場設置も予定している。

○運営推進会議は多くの参加者を得て定期的開催され、ホームの現況報告や行事、事故や苦情の報告、課題等についての意見交換の他に、災害時の対応や地域との関わり、認知症の支援など幅広く話し合われ具体的に日々のサービス向上や運営に役立てており、会議は有効に機能している状況である。

○管理者自身が日頃より話しやすい雰囲気作りに努めて、職員の悩みや業務に関する意見等を聞き取り、職員と連携して業務改善や利用者へのサービス向上につなげている。また、法人本部との連携も十分なされ、可能な限り職員の意見が反映されるよう配慮されている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念の中に地域に密着したサービス提供する内容を掲げ、法人全体の職員会議や朝の申し送り時に唱和、共有 実践に努めている。	ホームの理念に沿って、地域とのふれあいを大切にしながら利用者に寄り添い、毎日を楽しく過ごせるようなケアに努めている。理念は掲示し、毎日の申し送り時などに唱和して意義を振り返り、理解を深め実践につなげている。また、今後理念を見直して、ご家族等によりわかりやすい表現に改めることも検討を始めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入 回覧板を回す際、近隣の方達と出来るだけ話す機会を持ったり、地域の行事(夏祭り・運動会等)に積極的に参加、交流するように努めている。	自治会に加入して地域の祭りや運動会、清掃活動等に参加すると共に、日常的に散歩や買い物・回覧板連絡などの際に、小学生も含む地域の人々と挨拶や話を交わしている。また、ホームで年に数回地域との交流会を開催したり、毎月の誕生会には地域の方が踊りのボランティアに来訪されるなど交流の機会は多く、利用者はこれらの機会を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議の議題の中でGHの利用者様の様子や事例を通して認知症の方の支援方法や取組んでいる事を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では毎回利用者様の状態、活動内容や取り組み、事故・苦情研修の報告を行い、委員の意見を参考にしてサービスの向上に繋げている。	会議は利用者や家族・地域住民・地域包括センターの職員・民生委員等関係者が参加して定期的開催され、ホームの現況報告や行事、事故や苦情の報告、課題等についての意見交換が行われている。また、災害時の対応や地域との関わり、認知症の支援など具体的に話し合われ、職員で内容を共有して日々のサービス向上に役立てており、会議の役割は大きいものがある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市から介護相談員が年1回来訪、利用者、職員の相談や事業所の実情を伝えている。困り事や分からない事は随時、市の方へ連絡 協力関係を築けるようにしている	市担当者には入退所や認定更新の手続き等の相談に助言・対応して頂くほか、随時ホームの状況や利用者に関する相談等を電話や訪問で伝えるなど、必要な情報交換や連携を図っている。また、年に1回は市の介護相談員の受入もあり、ホームとの意見交換や情報交換の機会となっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を中心に言葉の拘束、身体拘束廃止について勉強会を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する勉強会を委員会を中心に行い、特に言葉による拘束について理解を深め、ケアへの反映を図っている。また、身体拘束に関する職員アンケートを年1回は実施し、職員自身がケアの状況を振り返ると共に、アンケート結果を分析して話し合いや勉強会を行い、日々のケアに活かせるように努めている。玄関や居室の施錠は行っておらず、利用者が外出しそうな場合は、職員は連携して見守りを行い個人の気持ちに配慮した対応を心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉・身体的虐待について勉強会を行っている。不適切なケア防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する制度については研修等で学ぶ機会を持つようにしているがまだまだ理解不足で活用していない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前入居時ご家族に要望や不安に思っていることなどを尋ね、理解していただけるよう説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱を置いてあるがほとんど活用されていない。年2回の家族会や面会時、運営推進会議の際、要望や意見を伺い運営に反映している。	利用者の思いは日常会話や表情の見守りから、ご家族とは来訪時や年2回の家族会の際に話しやすい雰囲気作りに努めて多くの意見を頂いている。日々の申し送りや職員会議で内容を共有して対応を話し合い、改善の経過や結果を速やかに本人やご家族に報告してサービスに具体的に反映できるように努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月2回の勉強会、職員会議や週1回本部での部署会議、月一回の管理職会議の際、意見・提案等を出すようにしている。	管理者自身が日頃より話しやすい雰囲気作りに努めている。職員会議や毎日の申し送り、更には年2回の個別面談を通じて、職員の悩みや業務に関する意見等を聞き取り、業務改善やサービス向上につなげている。難しい事案は法人本部とも話し合いができるしくみも築かれており、可能な限り職員の意見が反映されるよう配慮されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回E-ワークを利用、上司と面談を行い、振り返りや評価し向上心に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人内外の研修や勉強会の機会は多く設けられている。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	研修や各種会合などを通して交流の機会は設けられている。よかど会（吉野のグループホームの集まり）でも交流会や勉強会がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学の機会を設け、ご本人ご家族の要望や不安に感じている事をお聞きし関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に不安を抱かせないよう思いや要望等をお聴きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前にカンファレンスを行い必要とされる支援を見極め、対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意見や要望を聴きながら出来る事はして頂き、また入居者に教えてもらう事もあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の便りや面会時に日ごろの様子をお伝えしている。又利用者の誕生日にはご家族と一緒に祝い出来るよう計画している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在 入居者が重度化しておりますが、出来るだけなじみの場所への外出支援に努めている。 (なじみの床屋、美容室、お菓子屋さん)	入所時の聞き取りやご家族の来訪時の会話から、本人が希望する商店・床屋や美容室・墓参り・地域の祭りや催し物・一時的な帰宅や近隣のドライブなどを把握して、必要に応じてご家族とも調整して可能な限りの支援に努めている。また、家族や親戚の方々の来訪時には、ゆったりと過ごせるように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの配置(席)を工夫し、ご利用者同士 良い関係が築けるよう又職員が間に入りスムーズにコミュニケーションが取りやすいよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じ関係性を大切にしている。(GHで生活中の写真をアルバムやDVDにしてお渡しする等)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者個々の思いや要望を聞くように努めており、ご自分で伝える事が出来ない方はご家族に協力して頂き、意向の把握に努めている（行事やお風呂あがり等）	自分の思いをうまく表せる方が少ない中、職員は利用者の日頃の表情や会話、ご家族からの情報を基にして、思いや意向をくみ取るように努めている。把握できた内容は個別援助生活日誌への記述や日々の申し送り等で共有し、必要な意見交換を行い対応を検討すると共に、ご家族とも協力しながら最良の支援を目指して努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活環境が出来るだけ、継続出来るようこれまでの生活暦や暮らしをご家族より情報を収集、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活の様子や身体状態を良く観察し、現状の把握を行っている。変化があるときには、申し送り時に伝達、記録の記載を行い職員間での情報共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスを行い、ご家族ご本人の思いや職員間で意見を出し合い、介護計画を作成している。	日頃の利用者との関わりやご家族来訪時に得られた情報や、定期受診時の医師並びに訪問看護の看護師の意見、カンファレンス時の職員の意見も基にして、わかりやすい内容の介護計画を作成している。ケアの経過は個別援助生活日誌に詳しく記述されており、これを基に介護計画の見直し修正が適切に行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々の思いや要望を聞くように努めており、ご自分で伝える事が出来ない方はご家族に協力して頂き、意向の把握に努めている（行事やお風呂あがり等）		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要としている事を見極め出来る限り柔軟なサービス提供出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来るだけ地域の行事に参加し、繋がりを持つようにしており、近所のスーパーへも一緒に買物に出かけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、主治医の確認を行い、希望する医療機関での受診を行っている。専門員受診の時はご家族や職員が付添い適切な医療を受けている。	母体医療機関をかかりつけ医とする利用者が多いが、本人やご家族の希望を最優先して訪問診療や専門医の受診も含めた通院を適切に支援している。また、毎週訪問看護師の来訪もあり、受診状況や必要な対応は職員をはじめとする関係者で情報の共有が図られ、ご家族への連絡も適切に行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問診療・訪問看護があり、必要に応じて報告 相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中等病院との連絡相談を適宜行い、病院と円滑な関係作りに努めている入院中の様子を伺い、早期退院が出来るか利用者にとってどのような対応がいいのか相談、情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方についてはご家族に説明を行っている。状態に変化があるときはその都度事業所で出来る事、できない事を充分話し合い、職員で共有している。	重度化や終末期のケアについては、「看取りに関する指針」を定めて家族に説明し同意を得ている。また、状態の変化に応じて、ご家族及び主治医・看護師などの関係者と十分に話し合い、可能な限りの支援・対応ができるように体制を築いている。職員に対して訪問看護師より、看取りの際の対応についても指導が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変事や事故発生時の対応については全職員が実践できるように定期的に確認を行っている。リスク委員会を中心にマニュアル作成を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の立会いの下、防災訓練と、月1回小規模訓練（避難訓練、地震、台風、緊急連絡網を回す等）を行っている。地域の推進委員に協力してもらっている。	年2回は消防署や地域住民の協力を得ながら夜間想定も含む消火訓練や避難訓練を行っている。併せて年間計画に基づく火災や地震・台風等を想定した自主訓練も行われ、災害時の炊き出しの訓練や地域の防災用具の保管場設置も検討されている。また、スプリンクラーや自動通報装置等の設置や食料・飲料水等の備蓄も問題ない状況である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を傷つけないような言葉かけや対応に気を付けている。年2回程接遇委員会が中心となり勉強会も行っている。	利用者の人格を尊重して、日頃の暮らしの中で誇りやプライドを損ねるような言葉かけや対応を行わないように、接遇委員会が中心の研修や職員会議等で方法を共有して日々のケアに取り組んでいる。利用者に関する各種の記録の取り扱いや居室の保護などにも十分に配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の要望や思い、意向をお聴きする際、選択をしてもらいやすいような声掛けに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員ペースで動いている事もあるけど出来るだけ利用者個々のペースに合わせて、安心して穏やかに過ごして頂けるように気を付けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	定期的に散髪、カットの支援を行っている。離床時には身だしなみを整えてから誘導を行うようにしている。出来るだけ好みの洋服を一緒に選ぶようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ調理手伝い・調理見学、盛り付けを一緒に行ったりお盆拭きをお願いしている、おやつ作りも一緒に行っている。	野菜の下ごしらえや調理・盛り付け・食卓の準備や片付けなど、利用者の能力に応じて一緒に行い食事を楽しむ雰囲気作りに努めている。また、季節感のある食事の提供や利用者を行うおやつ作り、家族との外食、中庭での花見や食事会など、多くの工夫も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事の提供を行っている。(食事形態・食事量・温度) 食事量、水分量を記録、時間関係なく状態に合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状態に合わせて口腔ケアを行っている。出来るところまではして頂き、磨き残しは介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンを把握状態に合わせてトイレ誘導の声掛けやトイレに行くタイミング(しぐさ等)を見逃さず早めの対応を心がけている。	職員は連携して利用者の様子を細かく見守り、併せて排泄チェック表で個々のリズムを把握して、可能な援助方法を検討して自立のための支援を行っている。また、トイレ誘導等の言葉かけにも十分配慮して、利用者の羞恥心や不安の軽減にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や水分、腹部マッサージ等の便秘予防に努めているが、利用者のほとんどが便秘症で内服にて対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	予定にとらわれず利用者の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しんでもらうように支援している。	利用者の体調や希望にもよるが、週に3回以上はゆったりと入浴を楽しんで頂けるように支援している。入浴を拒否される場合には、時間をかけて話を交わすなどの対応を心がけ、特に安全確保に配慮した利用者本位の対応となるように工夫を重ねている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調管理に配慮、個々の状態に合わせて気持ち良く休めるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や用法、用量は理解しているものの副作用は把握できていない時あり。インターネットで調べたり薬剤師に尋ねるようにしている。服薬を行う際には誤薬のない様気を付けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の趣向を把握し、状態に合わせて役割を持って頂いたり、楽しみ事（レク、散歩、テレビ視聴、新聞等々）を取り入れている。又気分転換にドライブや外食、買い物支援に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出の希望があるときには、出来るだけ屋外に出かけられるようご家族にも協力もらいながら支援してする。（地域の行事、買い物、外食、ドライブ等々）中庭には日常的に出やすい建物の作りになっているので外気には触れる機会は持てている。	必要に応じてご家族の協力も仰ぎながら、利用者の希望に沿って地域の行事やイベント、季節の花見、外食、ドライブ等を可能な限り支援している。日常的には日当たりのよい中庭での日光浴や外気浴をはじめ、近隣の散歩や買い物、ドライブなど、車椅子やリフト車なども適切に活用しながら外に出かけて楽しんで頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さは理解しており、希望される方には、家族の了解を得て、買い物時ご自分の財布から使えるよう支援に努めているが、現在ほとんどの利用者の方が希望されてない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	現在自ら希望される方はいないがたまにご家族の安否が心配という方は電話をかけ、安心して頂いている。毎月の便りで職員が代弁で様子を書いて送っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のスペース部分は音、光、室温などに配慮、壁には季節や生活感を採り入れて居心地良く過ごせるよう工夫に努めている。	リビングはゆったりとしたスペースで明るく、室温や換気調節にも十分に配慮がなされている。季節を感じることでできる花飾りや貼り絵などもあり、利用者にとって不快に感じるような音や匂いもなく気持ちよく過ごせるように工夫されている。また、中庭は広く明るく、天気の良い日は日光浴や地域の方々との交流も楽しめる環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の状態や気の合った利用者同士がゆっくり過ごせるようソファやテーブルの配置に配慮、居場所の工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものや馴染みの物を使用して頂き安心して過ごせるよう工夫している。使い勝手に問題等があれば家族・本人と相談するようにしている。	居室は畳とじゅうたんの落ち着いた雰囲気であり、トイレと洗面台が設置されている。利用者には使い慣れた家具や身の回りのものを持ち込んで頂き、本人が自分の部屋として安心して暮らせる環境となるように、家族とも協力しながら支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベットから立ち上がる際、転倒のリスクのある方は足元に滑り止めを敷き、安全に立ち上がれるようにしている。安全に移動が出来るよう生活導線の環境整備にも気を付けている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所理念は掲示してあり、職員会や朝の申し送り時に唱和している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の夏祭り・運動会などに積極的に参加するようにしている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議に地域の方をおよびしている。しかし認知症についての支援・理解が得られるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームでの取り組みや話し合いを行っており、そこで出た意見はスタッフにも報告を行っている。改善するべきことについては改善できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の介護相談員の受け入れを年1回行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設内の委員会で年2回の勉強会を行い拘束のないケアについて実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされないことがないよう注意を払い、防止に努めている	言葉・身体的虐待について勉強会を行っている。不適切なケア防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する制度については研修等で学ぶ機会を持つようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に家族に説明を行い理解していただいている。又疑問点についてはその都度答えるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱の設置を行っている。又面会時、に要望を聞いている。年に2回の家族会有的时候には、じっくり話し合えるような場を準備するようにしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	勉強会・職員会議を通して意見を伝える場はある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に2回個人面談を行い、聞き取りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人内外の研修や勉強会の機会は多く設けられている。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	研修や各種会合などを通して交流の機会は設けられている。よしの会（吉野のグループホームの集まり）でも交流会や勉強会がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心していただけるような声かけに努め、またなるべく本人の好みや生活リズム・パターンなどを知ることができるよう早期に情報収集を行っている。スタッフ間でも情報を共有するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や要望を言っていただくような声かけを心がけ関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前にカンファレンスを行い必要な事について話し合うとともに、家族にもよく話を聞き、必要な支援サービスを提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はお手伝いして頂きながら一緒に行い、作業に参加できなくとも見ていただくことでの参加をして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の便りや面会時に日ごろの様子をお伝えしている。又利用者の誕生日などは参加して頂けるようともに内容を考えるようしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで利用しているお店が（散髪・病院・よく利用していた店舗）あれば続けて利用できるよう支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの配置など工夫を行っている。又職員が間に入りコミュニケーションが取りやすいよう配慮を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じてフォローを行うこともあるが、継続性はない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	思いや希望を聞くように努めている。又要望にこたえられるよう家族に協力をお願いする事もある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前・入所後に聞く機会を持ち今までの生活について把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態・状況の変化を良く観察し、現状の把握を行っている。変化があるときには、申し送り時に伝達、記録の記載を行い職員間での情報共有に努める。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて、対策に困ったときにはカンファレンスを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	必要に応じて、対策に困ったときにはカンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要としている事を見極め出来る限り柔軟なサービス提供出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会活動や地域の行事に参加しつながりを持つようにしている。地域のお店での買い物を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医や専門医受診を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問診療・訪問看護があり適宜、報告相談を行い指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中等病院との連絡相談を適宜行い、病院と円滑な関係作りに努めている。面会へ行き情報の収集を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人本位で家族や医療機関と話し合い方針を共有しながら支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変事や事故発生時の対応については全職員が実践できるように定期的に確認を行っている。リスク委員会を中心にマニュアル作成を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を定期的に行っている。地域とのきょうりょくたいせいが出来ておらずこれからの課題である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや言葉使いは人格の尊重につながる事なので、対応の仕方と共に傷つける事のないよう配慮を行いながら接している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望・意向を尊重する事を心がけ、選択し易いような声かけを行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来ていないこともあるが、安心して穏やかにそれぞれのペースに合わせて過ごす事の出来るように気を付けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	定期的に散髪の支援を行っている。清潔を旨とし離床時には身だしなみを整えてから誘導を行うようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理手伝い・調理見学ををお願いしている。日常の食事でも好き嫌いを把握しながらなるべく季節感を味わえるものを提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>個々に合わせた食事の提供を行っている。(食事形態・食事量・温度)</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、各利用者の出来るところはして頂き、仕上げや受胎に合わせた口腔ケアを行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>定時での誘導の他にも、個人に合わせて又は希望時にトイレ誘導を行っている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>食事や水分補給、運動を行うようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	予定にとらわれず利用者の希望に合わせて入浴を行うようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状態や希望に応じて休息や安眠出来る様な支援を行っている（テレビやラジオを着けておく等）		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的は把握できているものの副作用は把握できていない。服薬を行う際には誤薬のない様複数人確認作業を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の新聞読み、見ていたテレビ番組等、時には中庭での散歩の声かけを行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出の希望があるときには、希望に添うことができるよう働きかけている。家族に協力をお願いする事もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>希望される方には、家族の了解を頂きお金を所持して頂いている。又買い物際にはご自分お金を使い買い物ができるよう声かけを行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>現在自ら希望される方はいないものの、希望があった時には支援を行うようにしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>危険がない様物の配置には気をつけている。壁には季節を感じる事が出来るよう利用者と共に飾りを作成する事もある。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファに座っていただいたり、状況に応じて席を随時移動してもらうなどの居場所作りを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたもの夜馴染みの物を使用して頂き安心して過ごせるよう工夫している。使い勝手に問題等があれば家族・本人と相談するようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー・手すりなど安全な環境作りを行っており、部屋のトイレも分かりやすいようにしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
		○	3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない